

【横浜ダンスコレクション EX2012 Competition II 総評】

「踊りたい」モチベーションとは十人十色だが、今回は自己表現以外の、より外的なテーマを扱ったダンサーが数名いたことが心強い。

ハタチそここの内面世界の探求よりも、彼らが社会や時代に対して見せる反応にこそ興味がある。

身体が外部の世界と感応し、摩擦し、亀裂を起こすさまを観たいと望むのだ。

[最優秀新人賞 高橋和誠]

ストリートダンス出身ながら、型通りの技巧に走らず、チームや競争意識と無関係な、良い意味で「引いた」表現が新鮮。

長身・細身の体型を逆手に取った控えめなスケール感、思わず脱力させられるユーモアも引き込まれた。

変化をつけにくいスタイルではあるが、視野を広げて新たなテーマを見つけてほしい。

[奨励賞 塚田亜美]

女子 2 + 男子 1 の組合せは古来、映画や舞踊、音楽などで繰り返されてきたが、まだまだ多くの可能性を秘めていそうだ。3 人の関係性がくるくると変動する振付が楽しく、目を離せない。

個々のキャラクターを生かしたストーリーも親しみやすく、感情移入できたことも好感度高し。

身体のキレもよく小気味よし！

住吉 智恵 (アートプロデューサー・ライター)

コンペティション II は、先走る熱い想いの表現が魅力のひとつ。

ただ、自分発の先走った想いが、なりふりかまわず行ったきりの表現で終わることもあった。

今回は想いの射程を見定めて、他者に確実に渡そうという傾向がより見えてきたように思う。

「振付」意識の昂まりも熱く感じた今回のコンペティションでした。

[最優秀新人賞 高橋和誠]

映像審査でも、身体ボキャブラリーが多く、研究熱心な人という印象であった。

ストリートダンスの型をなぞる部分はまだあるが、自分の想いを真摯に振付に託そうという姿勢に好感を持った。

今後も精神の高みに向けて表現を磨いてほしいと思う。

[奨励賞 塚田亜美]

女 2 人、男 1 人をうまく配したラブコメ、少女マンガ的世界にも見え、細かい仕草、選曲もよく練られていたと思う。

マイムやヴォードヴィルの要素を現代的に取り入れることも、若い世代に取り組んでほしいテーマのひとつ。

アートとエンターテインメント性をバランスよくダンスに込められる可能性を感じた。

立石 和浩 (雑誌編集者)

面白い振付が並ぶなかで身体と空間の関係性を意識した作り手が高い評価を得た。

最優秀新人賞の高橋和誠はストリートダンス出身。

ストリート側から新しい表現を探究する意欲を感じる。

どこか「オズの魔法使い」のかかしを思わせる彼の不思議な佇まいから新しい何かが生まれるのを楽しみにしている。

[最優秀新人賞 高橋和誠]

ストリートダンスの側からコンテンポラリーダンスの新しい表現を探究しようとする強い意欲が伝わってきた。

182 センチの長身から生まれるエモーショナルな動きは魅力的だ。腕の動きにも独自の表情がある。

新しい世界を切り拓いてほしい。

[奨励賞 塚田亜美]

男一人、女二人の組み合わせから生まれる動きはどれも驚きに満ちていた。

ラストにはもう工夫ほしかったが、ユーモラスで明るい雰囲気も好ましい。

もっと長尺の作品も見てみたいと思わせた。

浜野 文雄 (新書館「ダンスマガジン」編集委員)